

ワークシート・資料編

第Ⅱ部 国際秩序の変化や大衆化と近代的な諸課題

授業テーマ 近代オリンピックから「平等・格差」について考える

※ 赤字は生徒の解答例

MQ 1 (学習前) : 近代オリンピックの開催当初、女性選手が男性選手よりも少なかったのはなぜか? *1

SQ 1 : 女性をはじめて競技に参加可能となった夏季オリンピック大会はいつか?

1900年(第2回パリ大会) [2012年(第30回ロンドン大会) 全競技]

【資料1】夏季オリンピック大会における女性が競技可能な競技数

【グラフ】

夏季オリンピック大会における女性が競技可能な競技数

『現代の歴史総合 みる・読みとく・考える』p.157

(山川出版社, 2023年)

SQ 2 : 「スポーツ史研究者の見解」によると、近代オリンピック参加に男女差があった理由をどのように説明しているか?

近代社会では、スポーツの目的や規範が男女によって異なり、女性が過剰に競争的であったり、激しい競技をすることは、目的や規範に反するとされていた。

【資料2】「スポーツ史研究者の見解」スポーツ史研究者 来田享子(2018年)

【資料】

近代スポーツにおける性の二重規範

『資料と問いから考える歴史総合』p.143

SQ 3 : 当時の新聞報道は、スポーツ分野への女性の進出にどのような影響を与えたか?

スポーツで鍛えられた身体は「普通的女子」からの逸脱と見られるため、女性がアスリートとして活躍しようとするのを抑制していた。

【資料 3】「人見絹枝の死去を報じる新聞記事」

【資料】

人見絹枝の死去を報じる新聞記事
『資料と問いから考える歴史総合』p.143
(浜島書店, 2022 年)
東京朝日新聞 (1931 年 8 月 3 日) *2

【写真】

1928 年アムステルダム五輪
陸上女 800m に出場した人
見絹江の写真

MQ 1 (学習後) : 近代オリンピックの開催当初、女性選手が男性選手よりも少なかったのはなぜか？

MQ 2 : 現代の男女平等やジェンダー問題について、どんな課題がありますか？またその課題に対して、あなたはどのように関わっていきますか？具体的な事例を挙げて考えてみよう。

【生徒の学習活動】

- ・資料4「ジェンダー＝ギャップ指数」の資料を用いて、日本の現状について把握する。
- ・資料5「平等と公平」について考える。

【資料 4】 ジェンダー＝ギャップ指数

【グラフ】

ジェンダー＝ギャップ指数
『新詳歴史総合』p.200
(浜島書店, 2023 年)

【資料 5】 平等と公平

【イラスト】

Illustrating Equality VS Equity
“Interaction Institute for Social Change
Artist: Angus Maguire.”
(<https://interactioninstitute.org/>)

- * 1 オリンピックは、もともとギリシアのオリンピアで、ギリシア神話の最高神ゼウスに捧げる競技の祭りとして行われていた(紀元前 776～後 393 年)。1500 年の中断を経て、1896 年にフランスのクーベルタン提唱で、近代オリンピックとして復活した。
- * 2 人見絹江は、1928 年アムステルダム五輪陸上女子 800m で銀メダルを獲得し、日本女性初のメダリストとなった。人見の死去を伝えた新聞記事は「三世界記録輝く 男性的な女巨人」という見出しであった。